

令和8年2月2日

石巻市議会議長 遠藤 宏 昭 殿

会 派 名 無会派

代表者氏名 阿 部 正 春

調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 阿部正春
- 2 調査期間 令和8年1月20日から
令和8年1月23日まで 4日間
- 3 調査地及び調査内容
 - (1) 高知県香美市
 - ・有害鳥獣被害対策について
 - (2) 高知県四万十町
 - ・町営塾「じゅうく。」について
 - (3) 愛媛県西予市
 - ・西予市役所オフィス改革の取組について

4 目 的

- (1) 高知県香美市
 - ・有害鳥獣被害対策について

香美市では、農村部での農作物被害だけでなく、市街地周辺の民家や花壇においても被害が発生しており、その対策としては、香美猟友会、高知中部森林管理署、香美市の連携協定や他市町村と連携した一斉捕獲、狩猟免許を持つ香美市職員で構成する鳥獣被害対策実施隊などを進めている。

本市においても、ニホンジカ被害だけでなく、現在ではクマ被害も懸念されており、有害鳥獣対策は慢性的な課題であることから、香美市の取組を学び、本市事業の参考とする。

(2) 高知県四万十町

・町営塾「じゅうく。」について

四万十町では、高校生を対象とした公設塾「じゅうく。」の運営を平成28年11月から行っている。子どもたちがまちづくりを担う次代の人材として活躍することを目的とし、町が運営資金をまかなって高校生に無料で開放。高知大学と連携したビジネスコンクールの開催やカナダでの海外研修など、高校だけでは学べないことも含めた教育を提供している。

未来への人材育成や教育水準の向上を目的とした教育施策は、本市においても不可欠であり、移住定住施策の一助にもなることから、四万十町の取組を学び、本市事業の参考とする。

(3) 愛媛県西予市

・西予市役所オフィス改革の取組について

西予市では、人口減少の影響によって社会保障増大や税収減少が進み、財政の悪化が課題であった。そのため、多様化する市民サービスの対応や職員数に対する膨大な仕事量などに対し、職員の意識改革、イノベーションの創出や生産性向上を目的に、オフィス改革を実施。

部署間の机や椅子のレイアウトや業務に応じた働き方ができる執務室の整備のほか、現在では、電子決済導入やICTツールを活用した事務効率化に積極的に取り組んでいることから、本市の参考とするため、西予市の視察を行う。

5 調査概要

(1) 高知県香美市

・有害鳥獣被害対策について

[香美市の概要]

- ・人口：24,256人
- ・平成18年3月1日に土佐山町、香北町、物部村が合併し、高知市のベットタウンエリアから自然豊かな中山間地域まで広がる538km²の広大な面積を有するまちである。また、歴史ある伝統産業の土佐打刃物やフラフ、自然の恵みを活かしたやっこネギ、ニラ、桃の新品種、出荷量日本一の青果ゆずなどの生産地としても知られている。

[有害鳥獣被害対策]

(1) 被害の現状（農作物への被害）

①ニホンジカによる被害は年間を通じて発生

→ユズ、植林の樹皮剥ぎ

※水稻への被害は、田植え時期から10月の収穫時期まで発生

- ②イノシシによる被害は香美市全域で発生
 - 3月から5月にかけてタケノコへの食害
 - 6月から10月は野菜、水稲、果実への食害
 - ※食害のほかに、掘り起こし、踏み倒しなど多数の農業施設への被害
- ③ニホンザルによる被害は中山間地域で年間を通じ発生
 - 大根、トウモロコシへの食害
- ④その他の鳥獣
 - カワウ・アオサギは物部川流域で発生→アユなどへの食害
 - 野兎、ハクビシン、カラス、キジバト→野菜、果実、水稲への食害

(2) 主な有害鳥獣による農業被害の推移

農業被害額 (千円)

| | 令和2年 | 令和4年 | 令和6年 |
|-------|-------|-------|------|
| シカ | 651 | 573 | 141 |
| イノシシ | 712 | 245 | 339 |
| サル | 35 | 232 | 97 |
| ハクビシン | 62 | 236 | 278 |
| カラス | 79 | 33 | 45 |
| 合計 | 1,539 | 1,369 | 900 |

(3) 有害鳥獣の捕獲頭数について

| | 令和2年 | 令和4年 | 令和6年 |
|-------|-------|-------|-------|
| シカ | 1,912 | 1,986 | 2,190 |
| イノシシ | 384 | 365 | 413 |
| サル | 52 | 63 | 73 |
| ハクビシン | 75 | 53 | 62 |

(4) 有害鳥獣被害対策事業の概要について

①有害鳥獣被害防止事業費補助金

農作物を守るため侵入防止柵等の購入費の補助 (補助対象は新規設置施設分)

◎県交付金事業及び特別交付税措置対象事業

- ・シカ用…資材購入費6分の5、限度額40万円
- ・シカ用以外 (イノシシ、サル等) ※2戸以上の農家が連坦
 - …資材購入費4分の3、限度額50万円
- ・シカ用以外 (イノシシ、サル等) ※単独の農家
 - …資材購入費3分の2、限度額10万円

◎市単独事業

- ・有害鳥獣全般…資材購入費 2分の1、限度額 5万円
- ・捕獲機材購入補助（対象者：わな免許取得者限定）
 - くくりわな等購入補助…定額補助 1万円
 - 囲いわな購入補助…購入費 3分の2、限度額 33.3万円
 - 捕獲檻購入補助…購入費 3分の2、限度額 6.6万円
- ・新規小動物用捕獲檻購入補助（対象者：農家等）
 - …購入費 2分の1、限度額 5万円

②有害鳥獣捕獲報奨金事業

- ・香美市捕獲報奨金（狩猟期外）

| 鳥獣名 | 確認部位 | 単価 |
|-------|------|---------|
| ニホンジカ | 尻尾 | 10,000円 |
| イノシシ | 尻尾 | 10,000円 |
| サル | 尻尾 | 20,000円 |
| ハクビシン | 尻尾 | 2,000円 |
| ノウサギ | 両耳 | 2,000円 |
| カラス | くちばし | 1,000円 |

- ・高知県鳥獣被害防止総合対策事業（狩猟期外・サルは通年・市補助金に上乗せ）

| 鳥獣名 | 成獣幼獣別 | 部位 | 単価 |
|-------|-------|----|--------|
| ニホンジカ | 成獣 | 尻尾 | 7,000円 |
| イノシシ | 成獣 | | 7,000円 |
| サル | 成獣 | | 8,000円 |
| ニホンジカ | 幼獣 | | 1,000円 |
| イノシシ | 幼獣 | | 1,000円 |
| サル | 幼獣 | | 1,000円 |

- ・香美市シカ個体数調整事業（三嶺周辺捕獲作業）（年間4～6回）

剣山国定公園周辺の特別鳥獣保護区域内

| 鳥獣名 | 確認部位等 | 単価 |
|-------|---------|---------|
| ニホンジカ | 尻尾・個体写真 | 25,000円 |
| 捕獲困難地 | | 30,000円 |

※捕獲場所が急峻となっているため単価を上げている。

- ・森林環境保全対策シカ捕獲事業及び高知県シカ個体数調整事業
(11月15日～3月31日)

高知県による狩猟期のニホンジカ捕獲報奨金

| 鳥獣名 | 確認部位等 | 単価 |
|-------|---------|---------|
| ニホンジカ | 尻尾・個体写真 | 10,000円 |

※財源：県事業8,000円、市事業2,000円

- ・地域ぐるみの捕獲推進事業
市（協議会）が毎年講習会を実施

(5) 狩猟者育成事業

◎県事業

- ・狩猟免許取得事業
狩猟免許…3分の2、限度額8万円
わな猟免許…定額1万円、診断書料2千円以内

◎市及び香美市有害鳥獣被害対策協議会事業

- ・捕獲機材の貸出
- ・射撃講習会の実施（協議会事業）
- ・わな作成講習会の実施（協議会事業）
- ・捕獲補助員養成講習会の実施（協議会事業）
- ・被害防止対策講習会の実施（協議会事業）

(6) 香美市鳥獣被害対策実施隊の活動

- ・実施隊員…市職員6名（うち地域づくり支援員2名）
- ・主な業務…捕獲と被害調査等、カワウの追払い

(7) その他の鳥獣対策関連事業

- ・阿佐地域鳥獣防止広域対策協議会
- ・三嶺の森を守るみんなの会共催活動 高知県、香美市、香南市ほか
- ・香美市シカ被害対策及びジビエ活用推進連携協定
…香美市、香美猟友会、高知中部森林管理署の3者で締結
- ・シカ捕獲個体の処理施設への搬入事業（市及び協議会等）
…高知ジビエ工房にて令和5年度、処理頭数159頭うち食肉処理70頭
- ・令和7年度ジビエ関係整備及び推進事業
…搬入用冷凍車1台購入、2,000万円（市で購入）
冷凍庫＋冷蔵庫＋液体急速凍結機、合計3,520,000円（協議会で購入）
香美ジビエリーフレット作成500部、412,500円（協議会）

- ・物部川流域カワウ対策事業（協議会事業）
 - …ハンティングドローンを利用した追払い事業
 - 令和7年度スマート捕獲等普及加速化事業（県補助事業（国交付金事業））
 - 交付決定額 590 万円
 - ハンティングドローン一式購入 2,398,000 円ほか
- ・香美市狩猟フェスタ（市事業）
 - …ジビエと狩猟をメインにしたイベント

（8）現状と課題

【現状】

- ・農業被害は減少傾向
- ・有害鳥獣捕獲実績は増加傾向
- ・市外の狩猟者を呼び込むことなどで一定の狩猟者を確保
- ・上記により狩猟者の高齢化を防ぐ
- ・農業被害は、高齢過疎化で耕作地自体が減少したことが理由の一つ
- ・狩猟者の高齢化が進み、ほとんど高齢者が占めている

【課題】

- ・新たな狩猟者及びジビエに携わる人材確保
- ・狩猟技術の鍛錬
- ・銃猟狩猟者の減少
- ・被害対策未経験の農業者の知識向上
- ・放置果樹園対策の検討（侵入鳥獣の防止）
- ・シカ肉の消費拡大、商品開発及びシカ肉利用飲食店の拡大

（2）高知県四万十町

- ・町営塾「じゅうく。」について

（I）四万十町の概要

- ・人口：14,741人
- ・四万十町は平成18年3月20日に高知県高岡郡窪川町、幡多郡大正町、十和村の2市1村が合併し高岡郡「四万十町」が誕生。
町は東から西に流れる四万十川の中流域にあり、東南部は土佐湾に面している。面積は東西43.7km、南北26.5km、総面積が642.28km²（うち林野87.1%・田畑4.8%）
集落の多くは四万十川とその支流の河川沿いや台地部にあり、一部は土佐湾に面した海岸部にある。台地部には広大な大地が広がっているが、町域の多くは山林が占めている。

(II) 町の魅力

◎山・川・海という豊かな自然環境があり、自然と共存できるまち。

- ・米（平成28年産米食味ランキング「特A」を獲得）
- ・生姜（生産量日本一・加工品など多数販売）
- ・椎茸・栗・茶（椎茸はかつて地元の農協が販売額全国1位、取組みが盛ん）
- ・四万十ポーク（四万十川流域の豊かな自然が育んだヒノキは、全国でも有数の産地）

※自然環境を活用した観光施策に力を入れているまち

- ・四万十ジップライン（四万十川を滑走して体感・8か月後には来場者1万人を達成）
- ・こいのぼりの川渡し（こいのぼりの川渡し発祥の地）
- ・ラフティング（四万十川の流れをボートで体感）
- ・キャンプ場（三島キャンプ場等町内には様々なキャンプ場がある）

※町民がまちの良さを感じ、自信を持ち、まちを大切にすゝる気持ちを育むことが重要、
こういった取り組みの結果、移住者やふるさと納税額増へと繋がっている。

- ・主に「町外」向けの情報発信

→四万十町フェイスブック四、インスタ、ユーチューブ

- ・主に「町民」向け→四万十町ライン

(III) 四万十町営塾「じゆうく。」とは

四万十町にある2つの高校「窪川高校」・「四万十高校」を応援するためにつくられた町営の塾で、「じゆうく。」という名前は自由と区の2つの言葉からできており、自由には様々な想いが込められている。また、学習を通じて、子供達が学んだことを自分の言葉にすること、課外活動を通じて、好きなことを知って夢中になることを願っている。区とは場所と言う意味が有り、そんな様々な学びが生まれる場所を目指したいという考えに由来している。

ア) 学ぶ力を身につける

「じゆうく。」に通う目的は生徒により様々、一人一人の目標達成をサポートするために、授業や質問対応などを行っている。目標に向かって計画を立てることや、結果を振り返り、次に繋げることをサポートしている。

イ) ワクワクする瞬間に出会う

身の回りの様々なテーマを多様な視点から学ぶ授業を実施し、科目の勉強のみにとどまらない学びの機会を提供している。キャリアをテーマとしたイベントも実施しており、多様な経験を持った大人との交流を通じて、自分の将来について考える機会も設けている。

ウ) 様々な事に挑戦してみる

生徒主体でイベントを企画したり、他県の高校生とともにクラウドファンディングに挑戦したり、初めは上手くいかなくても諦めず取り組むことで一つずつ出来ることが増えて行き、その経験がまた次の挑戦に繋がって行く。

「じゆうく。」が目指すのは「挑戦の連鎖」が生まれるコミュニティ。

エ) 進路の実現を目指す

「じゅうく。」では推薦入試を中心とした受験のサポートを行っている。どんな対策をすればいいかわからない、そんな悩みを持つ生徒一人一人と対話し、大学・学部調べや志願理由書の作成、面接対策などをサポートしている。

(IV) 町営塾「じゅうく。」の概要

※スタッフは塾長含めて6名

①高等部は2つの高校が対象

開室日：週5日（月～金）

対象学年：1～3年生（途中入塾可能）

利用料：2,000円（保険料年間800円）

通塾人数：54名（町内高校生の約50%）

②中学部3つの中学生が対象

開室日：週1日（水曜日）

対象学年：2～3年生（途中入塾可能）

利用料：無料（保険料年間800円）

(3) 愛媛県西予市

・西予市役所オフィス改革の取組について

[西予市の概要]

西予市は愛媛県南部、南予地方の中心に位置し、近年は高速道路開通により交通アクセスが飛躍的に向上し、南予の広域的な交通拠点となっている。各地域には、歴史的建造物や古墳群など数多くの文化遺産のほか、四国一とも言われる多品目産地として、愛媛を代表するみかんのほか、魚介類、米、ぶどう、栗、乳製品、牛肉類などが生産されている。人口は36,633人、市域面積が514km²である。

[取組概要]

CHANGEせいよ！～西予市におけるオフィス改革の取組みから～

①西予市の概要

特徴は標高差1,400mと変化に富んだ自然

面積が広く、人やモノの移動に多くの時間がかかる

（ほか、四国西予ジオパークなど）

②デジタル推進課の体制

政策企画部デジタル推進課

課長1人 — 課長補佐1人 — 行政システム係3人 ※主にシステム管理
— デジタル推進係3人 ※主にデジタル推進

③なぜオフィス改革？

- ・生産性の向上のためにオフィス改革を開始
 - …人口減少・財政悪化、職員数減少、多様化する市民サービス
 - 生産性向上のための環境整備が必要
 - オフィス改革を開始
- ・生産性向上とは？
 - アウトプットを増やす…アイデアを増やす
 - コストを下げる…ルーティンワークを効率化する
- ・改革以前の西予市役所
 - モノが散乱、書類に囲まれて仕事している、
 - 書庫が部署を仕切る壁になっている、偉い人はひな壇席
- ・固定席前提の「昭和な」仕事スタイル
 - …有線LAN（デスクトップパソコン）
 - 紙資料が前提のため、書類は机や袖机に保管
 - PCを持ち歩くことができず、紙資料が前提
- ・気軽に話せる場所がなかった

〈 以前の打合せフロー 〉

- ・関係者に声掛けして了解を得る
- ・会議室が少なく、埋まっていることが多い
- ・予約なしで使用できるミーティングスペースが皆無
- ・紙資料を印刷して打合せ

↓↓↓

《 起きていた問題 》

- ・打合せを開くまでに時間がかかる
- ・決めなければならないことが先送りされ、スピード感を持った対応が行なわれず、さらに問題が複雑化
- ・業務効率の悪化

④生産性高めるためにオフィス改革が必要

- ・平成 26 年度からの取組

| | |
|----------|---------------------------|
| H27. 3～4 | 4 階企画財政部既存のレイアウト変更 |
| H27. 10～ | 4 階総務部総務課既存のレイアウト変更 |
| H28. 4 | <u>オフィス改革産学官連携・協力協定締結</u> |

| | | |
|--------|-------|--------------------------|
| H28.11 | ステップ1 | 4階モデルオフィス完成 |
| R1.8 | ステップ2 | 2・3階のレイアウト変更 |
| R4.4 | ステップ3 | 「新しい生活様式に対応した行政サービス」構築終了 |
| R4.10 | | クラウドPBX運用開始 |
| R4.11 | | オフィス改革コアチーム発足 |

⑤改革に対する反発の声

・職員からの反発の声

…意味ある？、紙じゃないと無理、効果が期待できない
 自席がないって？、環境を変えたくない

・市民・議会からの反発の声

…また庁舎にお金かけるの？、誰が言い出したのだ？
 なんでやらないといけないのか？、財源は？、効果を数字で説明しなさい
 もっとやるべきことがあるだろう

・オフィス改革の意義を何度も説明

…議会へ、広報誌にて市民へ、理事者及び職員へ説明

・産学官連携・協力協定締結

…大学や企業と協力協定を締結し、議会や職員への説明にも同席

・本物に触れる

…サイボウズ(株)、総務省行政管理局、マイクロソフト、コクヨなどを視察
 市長も同行し、一緒に未来のオフィスを体感

・現場のメンバーでワークショップ

…プロジェクトチームを創設し意見を出し合う

・ワークショップから生まれた働き方コンセプト

→「CHANGE せいよ！」 挑むー繋がるー楽しむ

・職員の抵抗が少ないものから着手

→いきなり大きな改革を進めていくことはハードルが高く、厳しいため、試して、
 手ごたえを感じながらやる

⑥会話の量の変化

・職位が異なる職員の会話が増加→7.2倍に

・価値ある情報を得る機会が増えた→70%が回答

⑦昭和な働き方から脱却するための3つのオフィス改革

- ・紙の書類からの脱却
- ・昭和な会議からの脱却
- ・職位の壁からの脱却

⑧オフィス改革の効果

→部署や職位を超えた会話が増え、会話の質も上がりどこでもすぐに協議・打合せが可能に

⇒意思決定のスピードの向上、質の向上

6 所感及び石巻市への政策提言等について

(1) 高知県香美市

これまでも有害鳥獣被害の様々な取り組みを視察研修してきたが、今回説明を頂いた原係長の対応には「熱き熱意」が感じられ長期に渡り携わって来ている人と感じた。

有害鳥獣被害は全国的に広がりを見せ、これまで被害が多少減少、または解決した事例はない。シカ・イノシシ被害に加え近年ではクマの人的被害が多く発生している。本市においても例外では無く、目撃情報もこれまでになく増え、いつ人的被害が発生してもおかしくない状況となっている。こういう状況の中で本市においても、もう少し危機感を持つとともにニホンジカ対策室の組織をもっと強化すべきと考える。駆除した肉を食用として利用出来る仕組みをつくり、産業化に向けての取り組みを行う部署も必要と考える。

組織を担う職員も自ら猟銃・狩猟の免許を習得し、公務員ハンターとして迅速な対応が出来るように本市対策室の強化を提言する。

(2) 高知県四万十町

四万十町の町営塾「じゅうく。」は町とシティプロモーション事業、関係人口創出事業、観光事業、自治体コンサルティング事業など展開する、地域に居住し、地域と共創する「まちづくり会社」との連携の下、県立窪川高等学校、県立四万十高等学校、そして3つの中学校の学習サポートなどを行っている。

体験（機会の提供）、進路のサポートを行うなど地域の課題を研究し挑戦すること、農業または商業など地域で活躍したい地域リーダー養成講座、生徒の好きなこと、やりたいことを自分で率先して行う部活動によって、生徒が語る自分の高校、ふるさと、窪川地区の素晴らしさを深く知ることが出来る学校、自分の好き・得意でのびのび活躍できる学校、自分でも気づかない得意分野へ背中を押してくれた先生に感謝という様々な声も聞かれ、卒業生からも卒業生として地域貢献の出来る人へと成長した、先生方と「じゅうく。」の丁寧なサポートにより目指したい未来が

明確になったなど、自分の高校に対し、在学生、卒業生、そして地域の皆さんも誇れる学校と自負をしている。

地元の高校で時間を有効に使い可能性を伸ばしていただきたいと、町営塾「じゅうく。」は四万十町から2つの高校を無くさないための取組みを重点に行ってきた。学びや挑戦の機会を提供し、何ごとにもとらわれず、子供主体で地域を見直し、地域の皆さんと地域の中で学びを行って、そこから生徒達自ら率先して学びの環境をつくっていると感じた。

本市においても、人口減少に伴う市内高校の定員割れに対し、生徒獲得のため様々な施策を行っている。存続さえ危ぶまれる中で、子供達に学びや何かに挑戦する機会を与えることは大いに必要と感じる。地域の様々な環境、資源を活かし、子供達が自主的に自分の道筋を考える環境の提供を地域ぐるみで行うことが大事であり、それが単に高校の存続に関わらず、子供達の人格、地域愛にもつながっていくものと感じる。

まずは子供達に挑戦をする機会を与えることが必要で、この故郷石巻に残っていただく仕組みづくりが急務と考える。

(3) 愛媛県西予市

本市では震災後、人口減少、そして職員の削減など、庁舎のスリム化が課題であり、現在の執務室の在り方を含む塩飽署の改革が必要であると思う。

本庁舎はさくら百貨店から譲られた建物であり、元々デパートの特質から庁舎内は何の仕切りもなくフラットなフロアとなっている。それらを何らかで仕切り、部署ごとに区切りを設けているため、窓口に来庁された方は部署を確認しながら各課に移動をしなければならない。これまでの仕切りを取り除き、空間の再構築、ミーティングスペースやスタンディングテーブルなどを設置し、せめて部署ごとのコミュニケーションの活性化の促進を提言する。

7 調査経費 94,580円

8 添付書類 別添資料のとおり